

郷土史研究の動向

—昭和六十一年—

福井県立図書館

郷土資料室

昭和六十一年における郷土史研究の動向について刊行された文献および歴史研究施設や関係団体の活動を通じて紹介したい。なお、文献については福井県立図書館に所蔵されている資料によったことを特にお断りしておく。また、本稿は県下に在住の研究者の活躍とその成果を紹介することに主眼があるので県外の研究者の論文などについては県外において発表されたものを除き割愛したことを付記しておく。

一、県史・市町村史・地区誌

県史では『資料編一中世』と『資料編一三考古』が出版された。資料編二は県外の中世史料を収録したもので三三都道府県二〇七ヶ所から二〇五二点の文書を採録している。ただし、若狭太良荘と越前河口・坪江荘の二大史料群は紙面の都合で割愛された。資料編一三は本文編と図録編の二分冊で、主要遺跡一五九ヶ所の写真・図面・解説が収録されている。『福井県史研究三・四』も発刊された。

市町村史では『福井市史資料編三近世一』・『勝山市史資料編三村方二』・『鯖江市史

史料編二諸家文書一』と『小浜市史料所在目錄五』が刊行された。福井市史は藩政など七項目に一九九点の史料を分け、それぞれに写真・釈文・注・解説を付した異色の編集を行っている。勝山市史では幕府領・鯖江領・郡上領の村方史料五二家・六六〇点を収め、鯖江市史は市域東部の旧五ヶ村四五家・二四六点の史料を収録している。

町村史では『小浜町誌』・『越廼村誌史料編』・『宮崎村誌下』・『小浜市中名田郷土誌』が刊行された。越廼村誌は文書・目録両編を収め、文書編には四一八点の史料を収録している。宮崎村誌は明治・大正期の通史である。小浜町誌・中名田郷土誌はいずれも大正四年に編纂されたものであるが、中名田は復刻、小浜は事情あつてこの度はじめて世に出された。地区誌では『本保御免状保存講』（勝山市本郷区）・『磯部故事録』（鯖江市（勝山市本郷区））・『田中幸』・『足羽の昔ものがたり集』（福井市・足羽熟年友の会）などがある。

二、原始・古代

『府中遺跡調査概報』（小浜市教委）・『高森遺跡一』（武生市埋蔵文化財調査報告二

(一)・『戸板山古墳群』(今立町埋蔵文化財調査報告二)が刊行された。府中遺跡は若狭国府跡に比定されている地域で、高森遺跡は丹生郡衙の遺構である。県内の刊行ではないが『式内社調査報告一五巻越前国・若狭国』(式内社研究会)は県下の研究者七名が執筆陣に加わり若越の式内社一五六社の全容を明らかにしている。

論文では『福井の文化九』が古代史の特集を組み、上田正昭「古代日本海文化の再発見」・藤井一二「正倉院の荘園絵図と越前」・愛宕速雄「敦賀地方の古代を考える」・沼弘「福井の先土器時代を探る」を収録している。『県史研究四』には大森宏「若狭の秦氏集団と弥勒信仰」、『福井考古学会誌四』では白崎卓「竜ヶ岡古墳出土石棺の製作技法について」・木下哲夫「常安式雑感」・工藤俊樹「勝山市村岡町滝波太郎ケ吉採集の縄文時代遺物について」・内田健一「清水町の古墳群分布調査報告」を収め、『福井考古学会報一四』には青木豊昭「船山古墳群について」などが報告され、『奥越史料一五』には永見繁雄「日本最古の奈良朝銭出土について」が収

められている。

三、中・近世

中世では県朝倉氏遺跡資料館から『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡一七』・『一乗谷中世都市まちなみとくらしの復元』・『武者野遺跡』が出版された。武者野は朝倉氏遺跡に隣接する地域で、国道一五八号の改良工事ともなつて実施された調査報告である。

近世では『間部家文書四』(間部家文書刊行会)・『松平春嶽公未公刊書簡集三』(福井市郷土歴史博物館)が刊行された。間部家文書四は鯖江藩主間部詮勝(文化一二)文久二)時代の国許の公用日記を抄録して刊行したものである。春嶽書簡集三は養子で福井藩主の松平茂昭に宛てた八巻分二〇通で、本書をもって越葵文庫蔵の「春嶽公御手翰」全二〇巻・一五五通の活字化が完了した。ところで近年県下各地で有志による古文書研修会が活動しているが、本年もその成果として二団体から『武生古文書覚四』(武生古文書を読む会)と『三方歴史ブックレット一』(三方古文書を読む会)が発刊された。論文では『県史研究三・四』のうち三号で

は、小葉田淳「冷泉為広卿の越後下向日記と越前の旅路」・酒井重夫「越前国南条郡関ヶ鼻について」・山本孝衛「近世の劔神社」・海道静香「山本氏蔵日本図屏風について」・四号では、松浦義則「南北朝期の若狭太良荘と守護支配」・杉本泰俊「若越亡失鐘銘集」・林義博「近世越前の家普請帳について」が収められている。『福井の文化八』では町づくりの特集を組み、松浦義則「勝家の領国支配と町づくり」・舟沢茂樹「福井の町と九十九橋」・亀井清「宿場町熊川の町並み」・坂本育男「金森長近と二つの町」・河原純之「朝倉氏遺跡の特別史跡指定」が収録されている。『若越郷土研究』(一七六一一八〇)には桜井帯刀「中世後半の高浜について」(一七六六)・土屋久雄「瀧江文書と関ヶ原の役」(一七七・一七八)・杉本寿「今南東郡六新田木地村落の構造」(一七七・一八一)・河村昭一「足羽御厨の伝領について」(一七八一八〇)・谷口初意「越前国名蹟考の著者井上翼章について」(一七九)・春松進一「壬申戸籍と守札」(一七九・一八〇)が収められた。その他紀要などでは『朝倉氏遺跡資料館

紀要一九八五』に岩田隆「中世遺跡出土の下駄」・馬淵久夫「鉛同位体比測定による火縄銃関係資料の原料産地推定」・武高評論一七』に小泉義博「中世敦賀津の津料」、福井市郷土歴史館報一一』に西村英之「続再夢紀事の基礎的研究上」・足立尚計「足羽社記略をめぐって」、県立羽水高研究集録四』に吉田健「福井藩預所の変遷について」、奥越史料一五』に坂田玉子「藩店大野屋研究新資料」・河原哲郎「遠州新居宿御用達飯田太兵衛大野様御控全文」、『日本地域史研究』の収録論文に舟沢茂樹「福井藩における知行制の一考察」がある。

四、近現代

『県議会史五』・『福井経済四十年のあゆみ』（県経済調査協会）・『県教組四十年史』・『県医師会史二資料編』・『大野高校八十年史』などが出版された。議会史五は昭和三四年より四一年を対象の期間としているが、当時県では後進県からの脱皮をめざし「れい明福井」をスローガンに諸施策を推進した時期であった。なお、議会史は本巻をもって完了した。福井経済四十年は写真・日誌・解説

・統計の四部から構成され、本県の産業構造や消費構造の推移が平易に理解できる資料集である。県外の出版であるが、三上一夫「日本近代化の研究—福井県下の動向を中心に—」（日本海地域史研究叢書）は明治維新期から昭和初期にかけての本県の農村社会の動向を分析し、近代化路線に照明をあてた労作である。

論文では、『県史研究三・四』のうち三号には末広要和「一九一八年福井県米穀—米価問題の諸断面」、四号には藪本金一「大正期における福井県漁業の発達—永江秀雄「若狭の六齋念仏と融通和讃」が収録された。紀要では、『福井工大研究紀要一六』に三上一夫「戦時下農家経済の一考察—福井県下の動向を中心に」、藤島高研究集録二四』に小谷正典「北陸線の敷設について」、若狭農林高研究集録九』に藪本金一「福井県における水産業の発展」、敦賀市立歴史民俗資料館紀要一』に井上脩「敦賀をめぐる国際連絡運輸小史」があり、『若狭郷土研究一八一』には三上一夫「戦時下農村構造の再編について—中間型福井県の動向を中心に」が収録されている。

五、その他の文献

『槌の響』槌の響越前武生打刃物刊行会）『九十九橋ものがたり写真集』（新九十九橋名橋化促進会）・『国指定名勝柴田氏庭園保存整備事業報告書』（敦賀市教委）・『修行の寺宝慶寺』・野村英一「松岡の先人たち」（松岡町）が刊行された。槌の響は昭和五四年に越前打刃物が伝統的工芸品として国の指定をうけたことを記念し刊行会が結成されたもので、打刃物の歴史・民俗・製作技法・史料が集大成されている。九十九橋ものがたりは当県下最古の橋が掛け替えられたのを機にその沿革や関係の絵図・写真を編集したものである。

なお、県外出版であるが、『さば街道熊川宿の町並み』（観光資源保護財団）・『市町村で見る福井県の歴史』（東京書籍）は地元研究者とのかかわりが深いので掲出して置く。六、歴史研究施設および関係諸団体の動向

県立博物館では二月七日のふるさとの日にちなみ第一回特別陳列展として「江戸から明治へ」展を開催、秋季特別展では「古鏡の美」展を行い北陸の出土鏡を中心に鏡の変遷を解

明している。県若狭歴史民俗資料館では秋季特別展「タツチ・ザ・ニホンカイ」展を催し、ウムを開催している。

日本海沿岸の縄文遺跡の出土品を通じ我国草創期の文化をさぐっている。なお、同展と時期を同じくして第二回県史展「古絵図が語る

若狭の浦々」が同館で行われた。県朝倉氏遺跡史料館では開館五周年記念として、「一乗谷と中世都市」展を開催、期間中の八月九・一〇両日「都市の構造と生活の復元」をテーマ

にシンポジウムを行っている。福井市郷土歴史博物館では「足羽山の今昔」展、今立町歴史民俗資料館では「わが町の文化財」展、

三国町郷土資料館では「北陸の旧石器」展をいづれも秋季特別展として開催した。以上の各館の企画展では図録を刊行している。なお、福井県立図書館では秋の読書週間中に「松平文庫展」を開催した。

諸団体の動向では、北陸都市史学会が七月二日に福井県立図書館において開催され、福井県からは平野俊幸「近世三国湊における廻船業の共同経営」、坂田玉子「藩店大野屋の開店地について」が発表された。また、県文化振興事業団では一〇月二七日三国町におい

て「北前船と文化交流」をテーマにシンポジウムを開催している。

七、郷土雑誌

郷土研究にかかわる誌名と号数のみを参考までに紹介したい。

○朝倉氏遺跡資料館紀要一九八五 ○奥越史料一五 ○研究紀要一六(福井工業大) ○研究集録四(羽水高) ○研究集録二四(藤島高)

○研究集録九(若狭農林高) ○古代日本海文化四一六 ○若越六一・六二 ○若越郷土研究一七六一一八一 ○敦賀市歴史民俗資料館報一 ○武生市史編さんだより一五 ○福井県史研究三・四 ○福井考古学会誌四 ○福井考古学会報一四一一六 ○福井市郷土歴史博物館報一一 ○福井の文化八・九 ○ふ

くい無形民俗文化財八 ○武高評論一七 ○若狭三五